大草野地区地域コミュニティ運営協議会　事務局だより　第 4 号－①

きずな

令和 2年 7月15日

TEL･FAX 0954－66－3113

発行責任者　江 口 常 雄

住みよい元気な緑の郷大草野

臨時増刊

大草野小学校特集　蛍の里の学習　その①　ふたたび光のダンスを！

6月29日（月）、大草野小学校の4年生が、南上の人工河川で蛍の幼虫放流を行いました。

またまた梅雨前線の合間を縫うように、校長の「私がこの学校に来て、初めて雨が降りませんでした。」という言葉のとおり、雨に見舞われずに放流ができました。

宮﨑会長の挨拶から始まり、担当の一ノ瀬顧問の指導で、紙コップに入れ分けた小さなちいさな幼虫を、みんなのカウントダウンのかけ声に合わせての放流でした。

その後、子供達は教室に戻り、「蛍の一生」について一ノ瀬顧問の授業を受けました。

卵の大きさや色の変化、一生のうちの大部分を占める幼虫時代（7月頃から翌年の3月頃まで）のこと、そして成虫への準備をする1か月ちょっとのさなぎの期間、そして次の子孫を残すためだけにあるかのような成虫の期間について説明がありました。

成虫は、蛍の最大の見せ場で光のダンス（乱舞）があるのですが、今回の蛍の一生を聞いた後では、蛍は一生懸命に、命を削りながら光を出しているのだと感じました。 最後に、顕微鏡で幼虫の観察をしました。顕微鏡をのぞきこんだ子どもたちから、感嘆の声があちこちからあがっていました。

7月1日（水）、このホタル学習の翌々日、今度は3年生に対して**「大草野のことについていろいろ知りたい！」**という学習も行われました。 その際、4年生のホ

タル学習の感想とお礼の言葉を綴った（写真左）冊子をいただきました。「とてもおどろいたことは、、ホタルの幼虫があんなに小さかったことです。」「あんな小さな体で一生けん命生きようとするとこをみて、生きることの大切さを知りました。」という感想や、「メスが10匹のうち2匹くらいしかいなかったこと」が大きな驚きのようでした。初めて覗いた顕微鏡への興味も書かれていました。

コミュニティが、この幼虫放流のために準備してきたことなども先生から伝えてあったのか、そのことに対するお礼の言葉もたくさん書いてありました。

「大草野のことについていろいろ知りたい！」は、一ノ瀬顧問お手製の冊子に沿って進められました。

校歌の歌詞の説明や「うれしの」や「おおくさの」の名前のいわれ、「益世会」の紹介、「塩田川」「漏斗岳」「丹生神社」「面浮立」そして「電車」や「ホタル」のことなど盛りだくさんの学習になりました。この、お手製の冊子は、新しく赴任してこられた先生方にも役に立っているということです。子どもたちの中から、大草野博士が誕生してくれたらステキだと思います。

＜＜ 編集後記 ＞＞

◇◇ホタルの役割◇◇

大草野小学校の子ども達が、大人になって、たとえ遠くに住んでも、「私のふる里は、四方を緑豊かな山に囲まれ、大きな川と道路に沿うように集落と田んぼがつながり、初夏になると小川では、都会のイルミネーションより、ずっと幻想的な蛍光色の乱舞が見られ、田や畑で遊べて、そして何より、『おはようございます！』と声を掛ければ、おじちゃんおばちゃんたちが必ず大きな声で返事をしてくれ、そして、『頑張れよ！』と励ましてもくれる、そんなふる里です。」と、話してくれることを楽しみに活動している、そんな地域コミュニティでありたいと思います。

コミュニティの蛍の里再生事業で、「ホタル」という言葉が、大草野というふる里を思い出す記憶のスイッチになり、そのホタルの光が、思い出の景色へと水先案内してくれる、ことを望んでいます。

私の親としての経験からは、大人が子どもに関われる時間はとても短いと思います。子どもとの時間を大切にしてほしいし、少子化に歯止めがかからない今の時代、子どもたちには、たくましく、賢く育って欲しいと心から思います。

頑張れ！ほたるっ子！

囲碁が好きな方へ

大草野研修センターで2週間に一度、午後から囲碁を楽しんでおられます。

参加したいと思う方、詳しい内容を聞きたい方は、次のお二人のどちらかにご連絡ください。

川原高文（五代）
090-5474-2668
田中　均（辺田）
090-8418-8306